

ES/1 NEO

*MF*シリーズ

PCプロダクトの導入

第28 版 2025 年 8 月

©版權所有者 株式会社 アイ・アイ・エム 2025 年

© COPYRIGHT IIM CORPORATION, 2025

ALL RIGHT RESERVED. NO PART OF THIS PUBLICATION MAY
REPRODUCED OR TRANSMITTED IN ANY FORM BY ANY MEANS,
ELECTRONIC OR MECHANICAL, INCLUDING PHOTOCOPY RECORDING,
OR ANY INFORMATION STORAGE AND RETRIEVAL SYSTEM WITHOUT
PERMISSION IN WRITING FROM THE PUBLISHER.

“RESTRICTED MATERIAL OF IIM “LICENSED MATERIALS – PROPERTY OF IIM

目 次

1. 導入プロダクト一覧	1
2. 動作環境.....	2
2.1. ハード・スペック	2
2.2. オペレーティング・システム	2
2.3. アプリケーション	7
3. ES/1 NEO MF シリーズの導入.....	8
3.1. セットアップの起動	9
3.2. セットアップの実行	10
3.2.1. 新規インストール	11
3.2.2. バージョンアップインストール	16
4. ES/1 NEO MF シリーズのプロダクト追加と削除	21
4.1. 変更／修正	22
4.2. 削除	24
4.2.1. プログラムの追加と削除からのアンインストール.....	24
4.2.2. メンテナンスプログラム画面からのアンインストール.....	26

1. 導入プロダクト一覧

ES/1 NEO MF シリーズ MF-eASSIST セットアップ DVD からは、以下のプロダクトを導入することができます。

プロダクト名	説 明
Performance Navigator	ES/1 NEO Performance Navigator は、ホストプロセッサで作成され、PC に転送されたファイルから、月次稼働報告書を自動的に作成するユーティリティです。
Web	ES/1 NEO Web は、ホストで作成された ES/1 NEO 出力リストを HTML ファイルとして参照・管理するためのものです。Web HTML コンバータは、ES/1 NEO リストファイルを入力し、HTML 形式のファイルへ変換します。
Log Utility	Log Utility は、MF シリーズ、Performance Web Service で作成されるプログラムログを管理します。
Performance Web Service	Performance Web Service は、MF シリーズで作成したグラフ等を一括管理し、Html 形式の Web コンテンツを提供します。
Performance Web Service Uploader	Performance Web Service Uploader は、管理用コンピュータ上のパフォーマンス情報を収集して Performance Web Service サーバに転送し、データベースに登録します。
ES/1 NEO 管理マシン Disk チェック	ES/1 NEO 管理マシン Disk チェックは、ES/1 で使用する Disk の空き容量をチェックするためのものです。Disk の空き容量が少なくなった場合、イベントログやメールでの通知を行います。

2. 動作環境

2.1. ハード・スペック

CPU	: Intel Pentium4 Processor 以上
Memory	: ES/1 NEO CS シリーズと同環境の場合は 16GB 以上、そうでない場合は 8GB 以上を推奨
解像度	: 1024×768 以上の解像度、256 色以上の色数

2.2. オペレーティング・システム

Microsoft® Windows® 10

Microsoft® Windows® Server 2016

Microsoft® Windows® Server 2019

Microsoft® Windows® Server 2022

Microsoft® Windows® 11

注意!

- ・オペレーティング・システムは 64 ビット版を導入してください。
- ・インストールは管理者 ID(Administrator)で行う必要があります。
- ・管理者 ID(Administrator)、Power Users、または管理者権限を持ったユーザ ID で使用してください。
- ・それ以外の権限ユーザの場合、報告書作成等を行えない場合があります。

各オペレーティングシステムにおいて、次の設定が必要です。

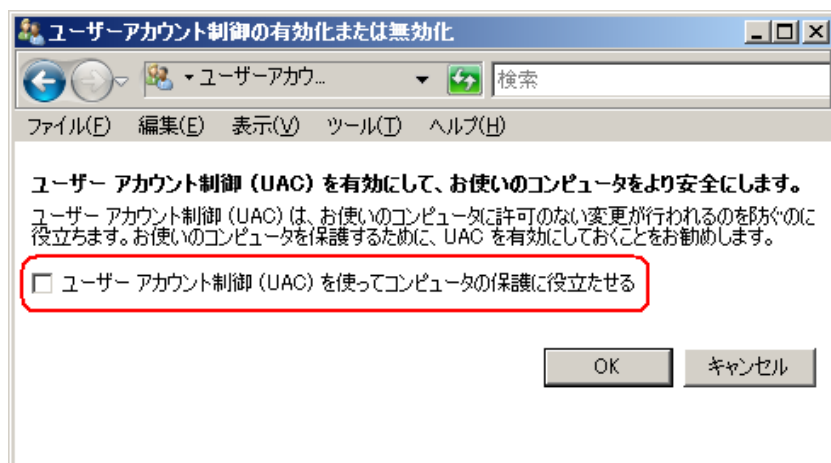
(1) ユーザーアカウント制御(UAC)の設定

Administrators 権限を付与したユーザ(Administrator ユーザ以外)で ES/1 を実行する場合に必要です。
ES/1 実行ユーザでログイン後、以下の設定を行ないます。

- ※ UAC が有効になっている場合、設定中に UAC による起動のブロック画面が表示されることがあります。
この場合は[続行]ボタンを押下してください。

[Microsoft Windows Server 2008]

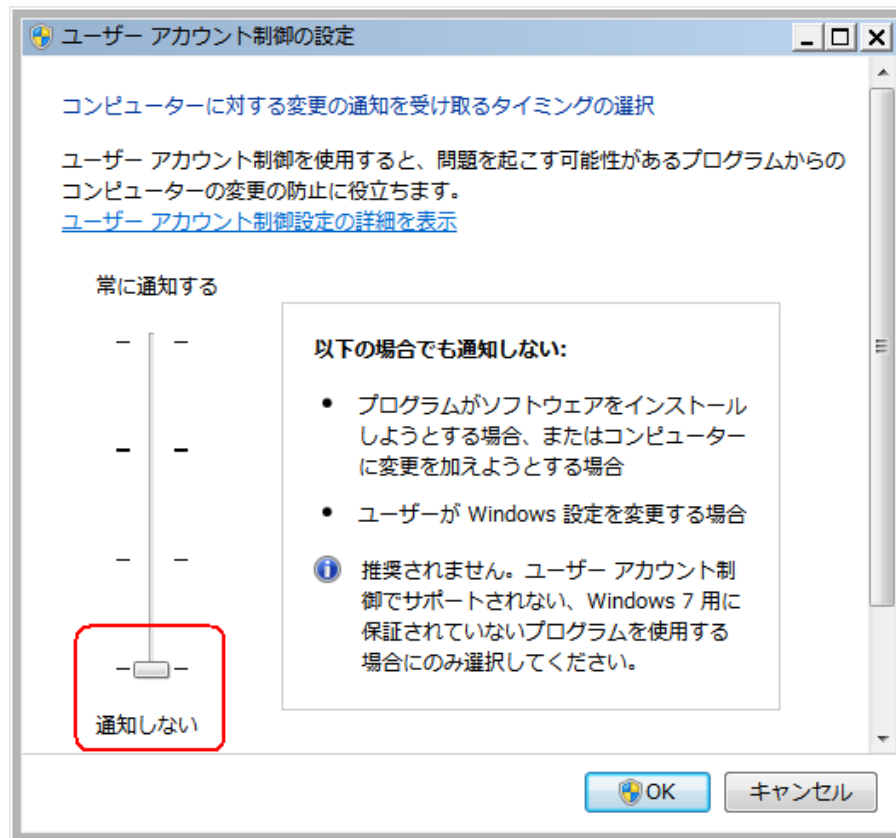
- ①「コントロールパネル」を開き、「ユーザー アカウント」を選択します。
- ②「ユーザー アカウント制御の有効化または無効化」を選択します。
- ③「ユーザー アカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックを外します。



- ④[OK]ボタンを押下し終了します。
- ⑤OS を再起動します。

[Microsoft Windows 8.1 以降]、[Microsoft Windows Server 2012 以降]

- ①「コントロールパネル」を開き、「ユーザー アカウントと家族のための安全設定」を選択します。
- ②「ユーザー アカウント」を選択します。
- ③「ユーザー アカウント制御設定の変更」を選択します。
- ④「ユーザー アカウント制御の設定」画面にあるスライダーのサムを一番下に下げ、「通知しない」に設定し、UAC を無効にします。



- ⑤[OK]ボタンを押下し終了します。

- ⑥OS を再起動します。

(2) タスクスケジューラの設定

タスクスケジューラを使用し、ES/1 をログオフ状態で実行する場合に必要です。

[Microsoft Windows 2008]

- ①タスクスケジューラに登録したタスクのプロパティを開きます。
- ②「セキュリティオプション」欄にて「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択します。
- ③「セキュリティオプション」欄にて「最上位の特権で実行する」をチェックします。
- ④[OK]ボタンを押下します。
- ⑤タスクを実行するユーザーアカウント情報を入力する画面が表示される場合があります。この場合はパスワードを入力してください。

※パスワードが設定されていないユーザーアカウントの場合、タスクの登録でエラーとなる場合があります。

[Microsoft Windows 8.1 以降]、[Microsoft Windows Server 2012 以降]

- ①タスクスケジューラに登録したタスクのプロパティを開きます。
- ②「全般」タブの「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択します。
- ③「セキュリティオプション」欄にて「最上位の特権で実行する」をチェックします。
- ④[OK]ボタンを押下します。
- ⑤タスクを実行するユーザーアカウント情報を入力する画面が表示される場合があります。この場合はパスワードを入力してください。

※パスワードが設定されていないユーザーアカウントの場合、タスクの登録でエラーとなる場合があります。

(3) タスクスケジューラに関連するローカルセキュリティポリシー設定

管理用マシンではローカルセキュリティポリシー設定にて、下記項目を「無効」にしてください。

[Microsoft Windows 2008]

- ①「管理ツール」から「ローカルセキュリティポリシー」を選択します。
- ②「ローカルポリシー」を選択します。
- ③「セキュリティオプション」を選択し、「ネットワーク アクセス: ネットワーク認証のために資格情報または .NET Passport を保存することを許可しない」を無効にします。

[Microsoft Windows 8.1 以降]、[Microsoft Windows Server 2012]

- ①コントロールパネルを開き、「システムとセキュリティ」を選択します。
- ②「管理ツール」を選択します。
- ③「ローカルセキュリティポリシー」を選択します。
- ④「ローカルポリシー」を選択します。
- ⑤「セキュリティオプション」を選択し、「ネットワークアクセス: ネットワーク認証のためにパスワードおよび資格情報を保存することを許可しない」を無効にします。

(4) Windows Server2008 以降での ES/1 NEO 製品群の導入と実行

Windows Server2008 以降で ES/1 NEO 製品群を実行させるには、下記の組み合わせで導入・実行を行う必要があります。実行ユーザと導入ディレクトリを確認し、最適な環境に導入してください。

導入先 実行ユーザ	¥Program Files	左記以外(例: C:¥IIM¥...等)
Administrator	○	○
管理者権限つきユーザ	×	○

1. ES/1 NEO 製品群のファイル(環境設定ファイル等)の更新が行えないため、Administrator 以外のユーザで実行する場合は、UAC の設定にかかわらず、導入ディレクトリを「Program Files」以外にしなければなりません。

2. Administrator ユーザ以外で、ES/1 NEO 製品群を導入・実行する場合、UAC が有効に設定されていると右図のような UAC による実行確認画面が都度表示されます。
- 「→許可(A)」を押下してプログラムを実行して下さい。



3. 既に「Program Files」へ導入してしまった場合、実行時に更新、作成される ES/1 NEO 製品群のファイル(フラットファイルや環境設定ファイル等)は、下記ディレクトリに保存されます。

<導入 Drive:>%Users%<login_user_name>%AppData%Local%VirtualStore%Program Files%im%...

ES/1 NEO 製品群の導入先を「Program Files」から変更する場合は、上記ディレクトリを参考に規定のファイルを新しい導入先に保存してください。

2.3. アプリケーション

(1) Performance Navigator

次のいずれかの組み合わせが必要です。

Microsoft® Excel 2016

Microsoft® Word 2016

Microsoft® Excel 2019

Microsoft® Word 2019

Microsoft® Excel 2021

Microsoft® Word 2021

Microsoft® 365 Apps

Performance Navigator を実行する際には、以下の Office 機能も導入してください。

- Office 共通機能 — コンバータおよびフィルタ — グラフィックフィルタ
- Office 共通機能 — Visual Basic for Applications

注意!

- 64 ビット版の Office 製品では動作しません。
Office 製品を使用する場合は 32 ビット版を導入してください。
- GUI やバッチ実行でのグラフ／報告書作成中は Microsoft® Office 製品を使用しないでください。
使用した場合、その結果は保証されません。
- Office2013 以降が導入されている管理マシンに対し、リモートデスクトップ等を使用したリモートアクセスを行う場合、適用している Office のライセンス種によっては Office が動作しない場合があります。
リモートアクセスによる Office の使用についての詳細は、Microsoft のホームページ等でご確認ください。

(2) Web

Google Chrome

Windows

(3) Performance Web Service

Windows Edge

Google Chrome

.NET Framework 4.6.2以上

(4) PDF 形式ヘルプファイル閲覧

Adobe® Reader® 最新バージョン

3. ES/1 NEO MF シリーズの導入

ES/1 NEO MF シリーズ MF-eASSIST のセットアップ方法を記述します。

注意!

MF シリーズの導入は Administrator 権限を持ったユーザ ID で行なってください。
管理者権限のないユーザ ID で導入すると起動に必要なファイルがコピーできない場合があります。

注意!

V05L22R1 以降の Performance Web Service を「Program Files」フォルダにインストールまたはバージョンアップする場合

V05L22R1 以降の Performance Web Service を「Program Files」フォルダにインストールまたはバージョンアップした後に、以下の対処手順を実施してください。

【対処手順】

1. サービス「iim pws tomcat」のプロパティを開き「ログオン」タブのユーザを以下のように変更します。
Local Service → ローカルシステムアカウント
2. サービス「iim pws tomcat」を再起動します。

【補足説明】

- ・Windows の「Program Files」フォルダに書き込みを行うには、管理者権限が必要です。
- ・Apache Tomcat 9.0.23 以降、Windows 版 Tomcat サービスの実行ユーザが、Local System から Local Service に変更されました。
- ・そのため、Apache Tomcat 9.0.82 を使用している Performance Web Service V05L22R1 では、「Program Files」フォルダへのインストールまたはバージョンアップ時に失敗し、セッション接続エラーが発生する可能性があります。

3.1. セットアップの起動

ES/1 NEO MF シリーズ MF-eASSIST DVD をドライブにセットすると Autorun が実行され、下記画面が表示されます。

Autorun が起動しない場合は、セットアップ DVD の「x:¥Setup¥Autorun.exe」を起動してください。



(1) セットアップ(S)

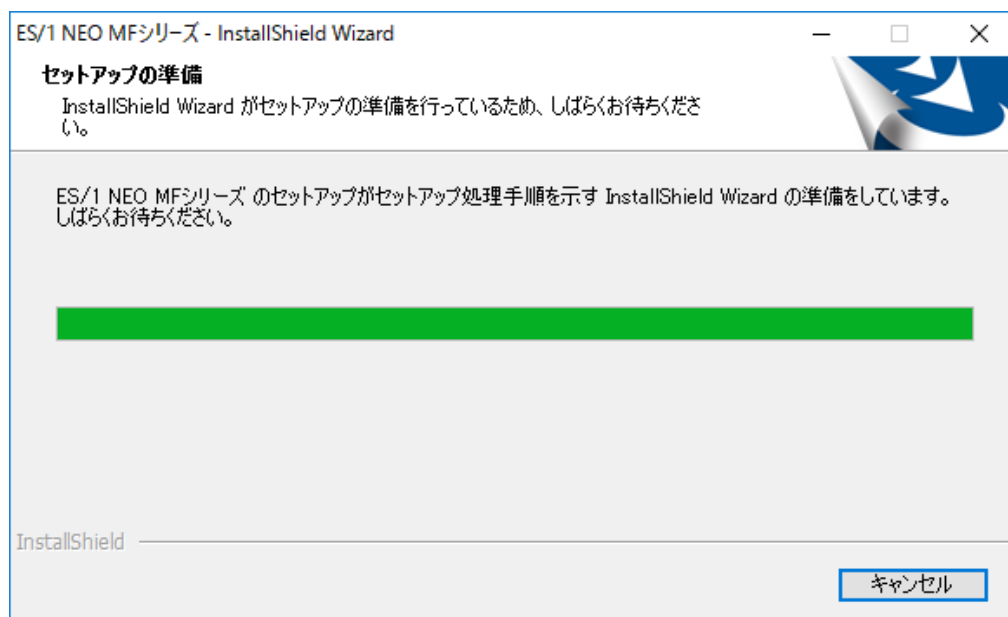
セットアップが開始されます。「3.2 セットアップの実行」を参照してください。

(2) Exit

セットアップを終了します。

3.2. セットアップの実行

「Expert System / One NEO」画面にて、「**セットアップ(S)**」を選択すると、インストーラが起動します。



新規インストール、バージョンアップインストールそれぞれについて説明します。

セットアップ形態に応じ、各節を参照してください。

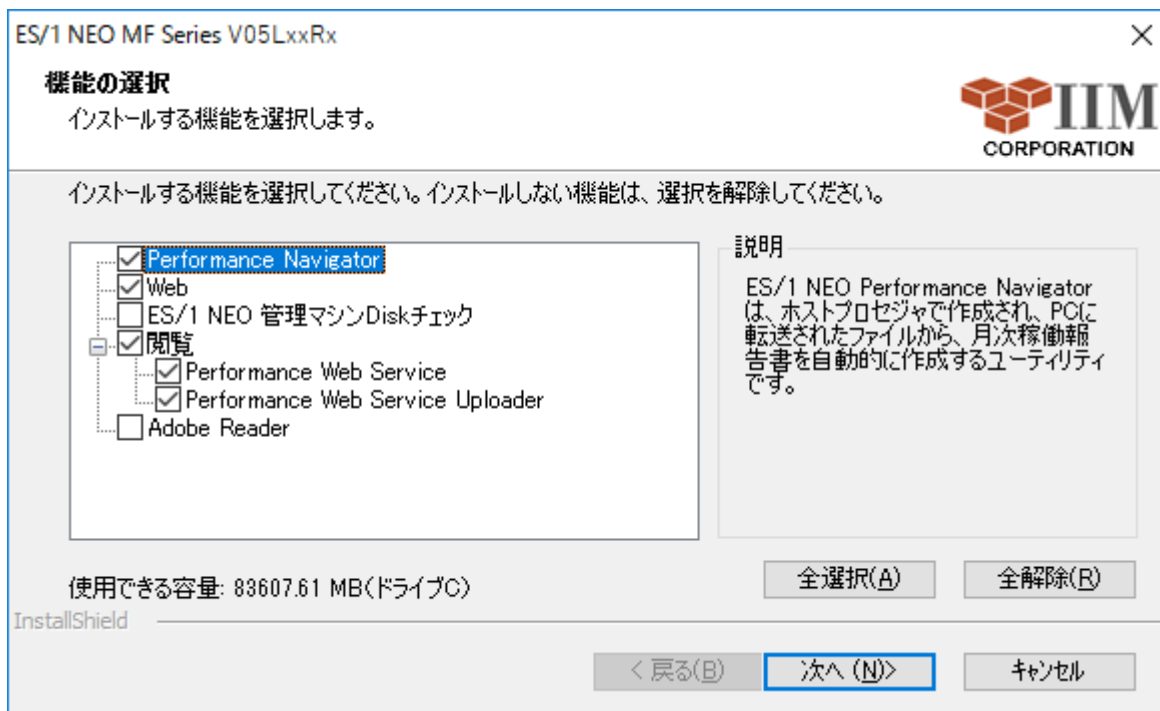
新規でインストールする場合 ……………「3.2.1 新規インストール」

バージョンアップでインストールする場合 ……………「3.2.2. バージョンアップインストール」

3.2.1. 新規インストール

(1) 導入プロダクト選択

導入するプロダクトを選択します。



① 全選択(A)

すべてのプロダクトを選択します。

② 全解除(R)

すべてのプロダクトの選択を解除します。

(2) インストールフォルダ指定とオプション指定

インストールフォルダの指定と、オプションの指定、ライセンス番号を入力します。

① プログラムファイル

プログラムファイル群を格納するベースフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に各プロダクト製品のサブフォルダが生成され、各種ファイルが格納されます。インストールするフォルダを変更する場合は、直接パスを入力するか、[参照...]ボタンを押下し、新たなパスを指定します。

注意!

フォルダを変更する場合は、2 バイト文字を含まないパスを指定してください。

Performance Web Service が使用する iim pws tomcat のサービスが起動できなくなります。

② データファイル

データファイル群を格納するフォルダです。ここで指定したフォルダ配下にフラットファイルやマニュアル等が格納されます。インストールするフォルダを変更する場合は直接パスを入力するか、[参照...]ボタンを押下し、新たなパスを指定します。初期状態では「C:\IIM_DATA」が選択されています。プログラムファイル群とは別のドライブに導入することをお勧めします。

注意!

フォルダを変更する場合は、2 バイト文字を含まないパスを指定してください。

Performance Web Service が使用する iim pws tomcat のサービスが起動できなくなります。

③ データベースファイル

Performance Web Service データベースを格納するフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に DB ファイルが格納されます。インストールするフォルダを変更する場合は、直接パスを入力するか、[参照...]ボタンを押下し、新たなパスを指定します。初期状態では「C:¥IIM_DATA」が選択されています。プログラムファイル群とは別のドライブに導入することをお勧めします。Performance Web Service データベースの初回導入時に指定可能です。

注意!

フォルダを変更する場合は、2バイト文字を含まないパスを指定してください。

Performance Web Service が使用する iim pws tomcat のサービスが起動できなくなります。

④ PWS ポート番号

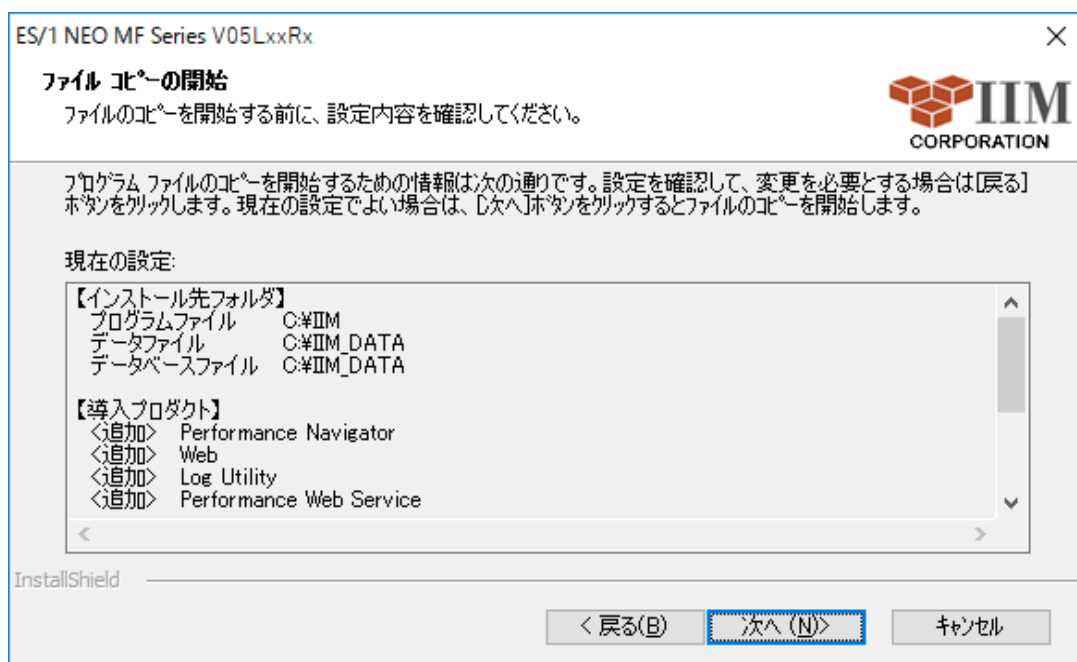
iim pws tomcat を起動させるポート番号です。初期状態では8080 が表示されます。Performance Web Service の初回導入時に指定可能です。

⑤ ライセンス番号

製品同包の「ライセンス番号登録手順書」に記載されている12桁の番号を4桁ずつハイフンで区切って入力します。「TRIAL」と入力した場合、トライアル版インストールとなり Performance Navigator の使用期限が2週間となります。また、Web のチューニングヒントもインストールされません。

(3) インストール開始確認

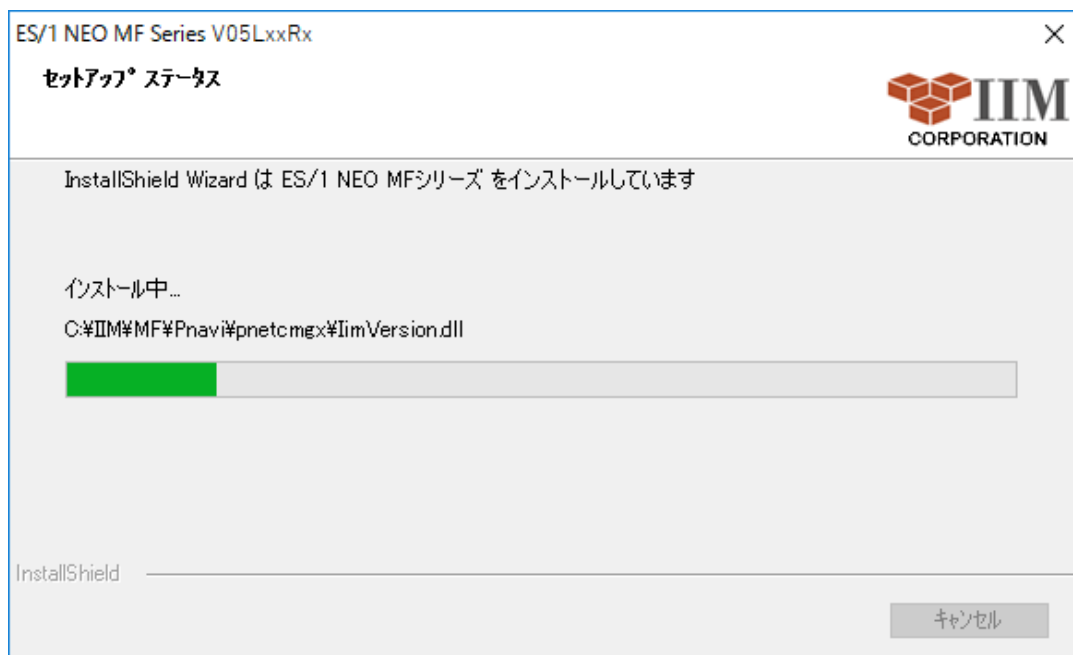
指定した導入先フォルダパス、選択プロダクトが一覧表示されます。



[次へ (N)>]ボタンを押下すると、インストール開始の確認メッセージが表示されます。

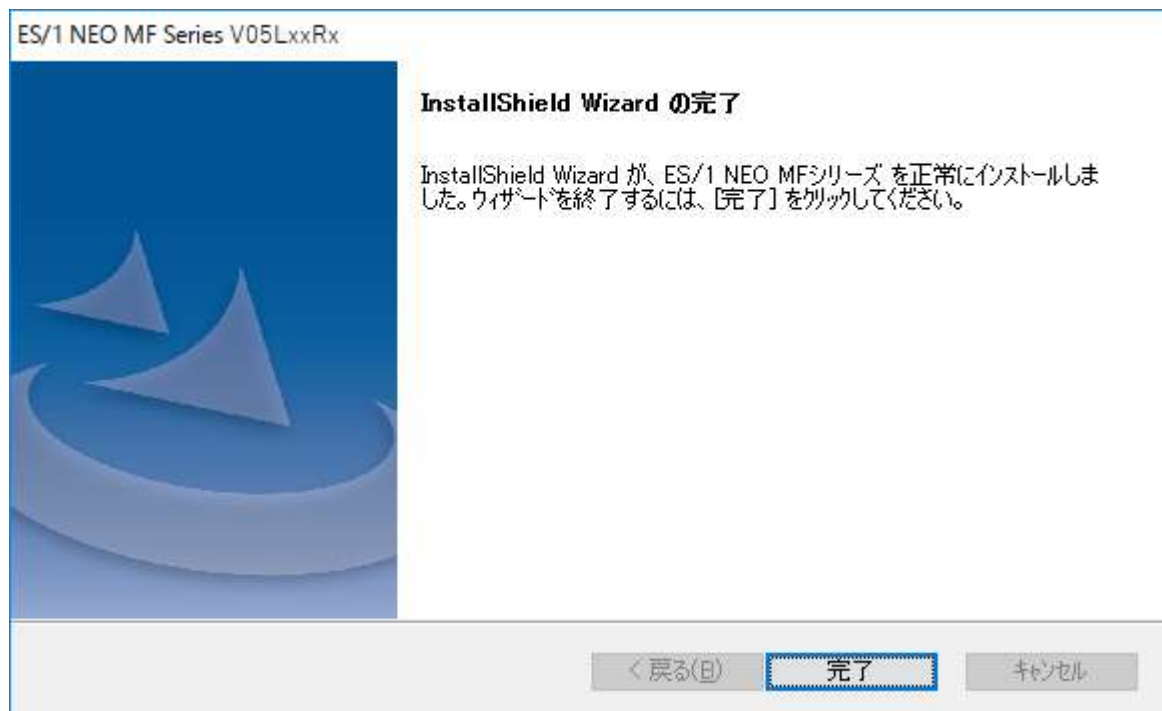


[はい(Y)]ボタンを押下すると、インストールを開始します。



(4) インストールの完了

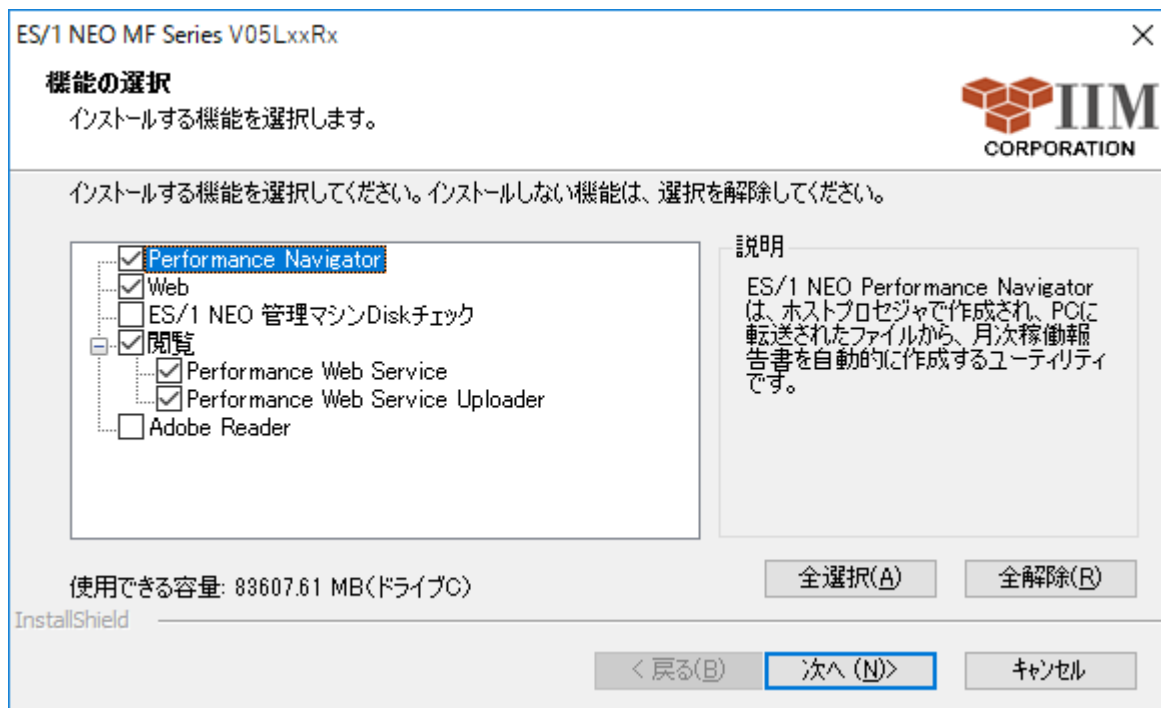
セットアップが完了すると以下の画面が表示され、[完了]ボタン押下によって終了します。インストールしたコンピュータの状態によっては、コンピュータの再起動が必要な場合があります。



3.2.2. バージョンアップインストール

(1) 導入プロダクト選択

導入するプロダクトを選択します。



① 全選択(A)

すべてのプロダクトを選択します。

② 全解除(R)

すべてのプロダクトの選択を解除します。

(2) インストールフォルダ指定とオプション指定

インストールフォルダの指定と、オプションの指定、ライセンス番号を入力します。

① プログラムファイル

プログラムファイル群を格納するベースフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に各プロダクト製品のサブフォルダが生成され、各種ファイルが格納されます。初期状態では、現在プロダクトが導入されているフォルダが表示されます。バージョンアップインストールでは変更できません。

② データファイル

データファイル群を格納するファイルです。ここで指定したフォルダ配下にフラットファイルやマニュアル等が格納されます。初期状態では、現在のデータフォルダが表示されます。バージョンアップインストールでは変更できません。

③ データベースファイル

Performance Web Service データベースを格納するフォルダです。ここで指定したフォルダ配下に DB ファイルが格納されます。初期状態では、現在のデータフォルダが表示されます。バージョンアップインストールでは変更できません。

④ PWS ポート番号

iim pws tomcat を起動させるポート番号です。Performance Web Service の初回導入時に指定可能です。

⑤ PWS DB バージョンアップ時のバックアップ

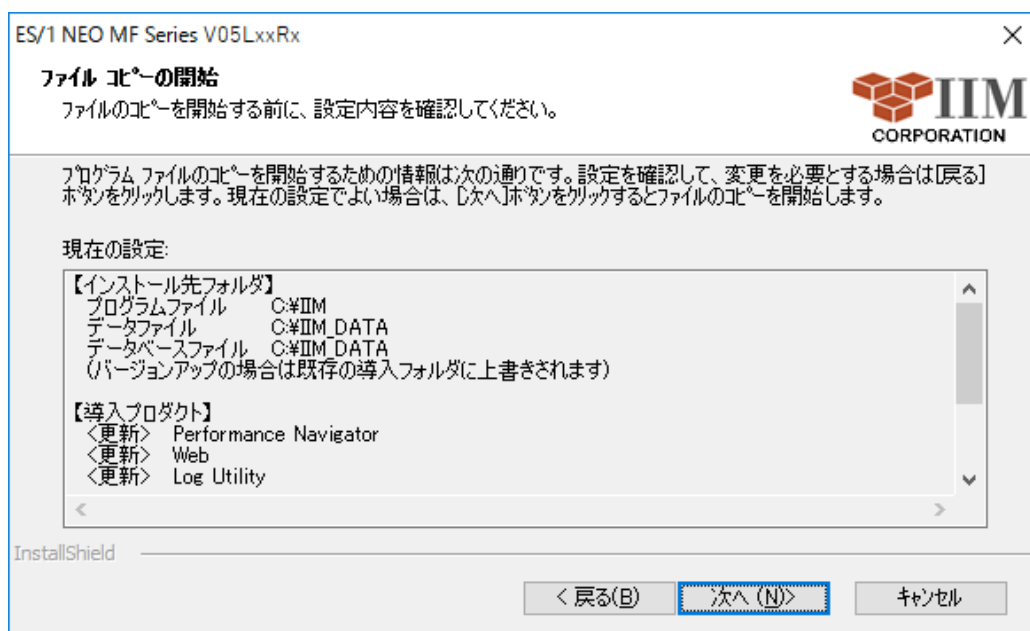
Performance Web Service のデータベースをバージョンアップする際、データベースファイルをバックアップするか否かを選択します。

⑥ ライセンス番号

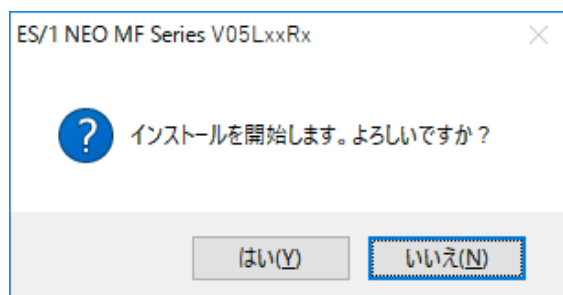
前回入力したライセンス番号とライセンス期限が表示されます。変更する場合は新しいライセンス番号を入力してください。

(3) インストール開始確認

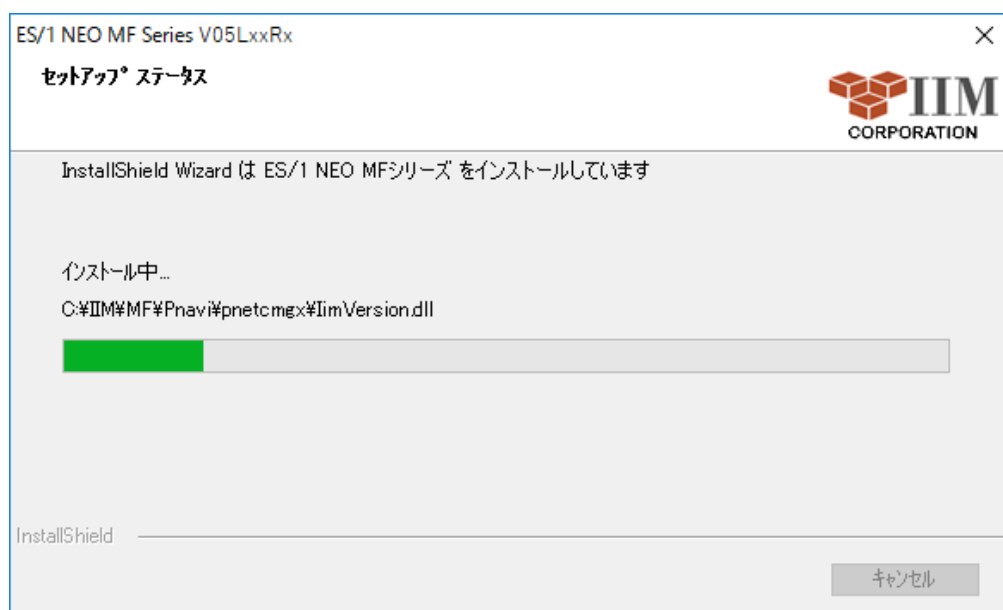
指定した導入先フォルダパス、選択プロダクトが一覧表示されます。



[次へ (N)>]ボタンを押下すると、インストール開始の確認メッセージが表示されます。



[はい(Y)]ボタンを押下すると、インストールを開始します。



(4) インストールの完了

セットアップが完了すると以下の画面が表示され、[完了]ボタン押下によって終了します。インストールしたコンピュータの状態によっては、コンピュータの再起動が必要な場合があります。



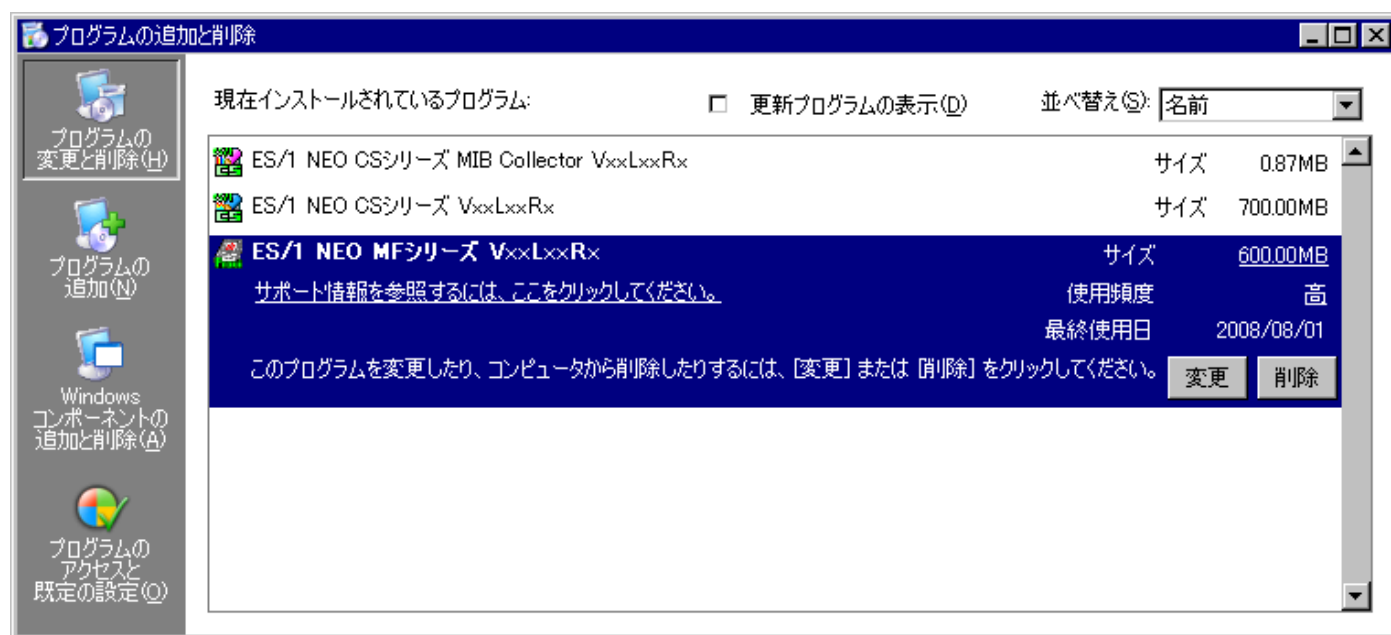
注意!

Performance Navigator をバッチ運用されている場合は、バージョンアップ後に必ず初期設定ウィザードを完了させてください。初期設定ウィザードを完了させない場合は Performance Navigator をバッチ実行することができません。

4. ES/1 NEO MF シリーズの製品追加と削除

製品を追加導入したり、不要な製品を削除したり、導入した製品を一括してアンインストールしたりします。

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から「ES/1 NEO MF シリーズ VxxLxxRx」を選択します。



(1) [変更]ボタン

新たな製品の追加や、インストール済製品の削除を行います。

また、前回行ったセットアップを、同一内容でもう1度実行する場合もここを押下します。

「4.1 変更／修正」を参照してください。

(2) [削除]ボタン

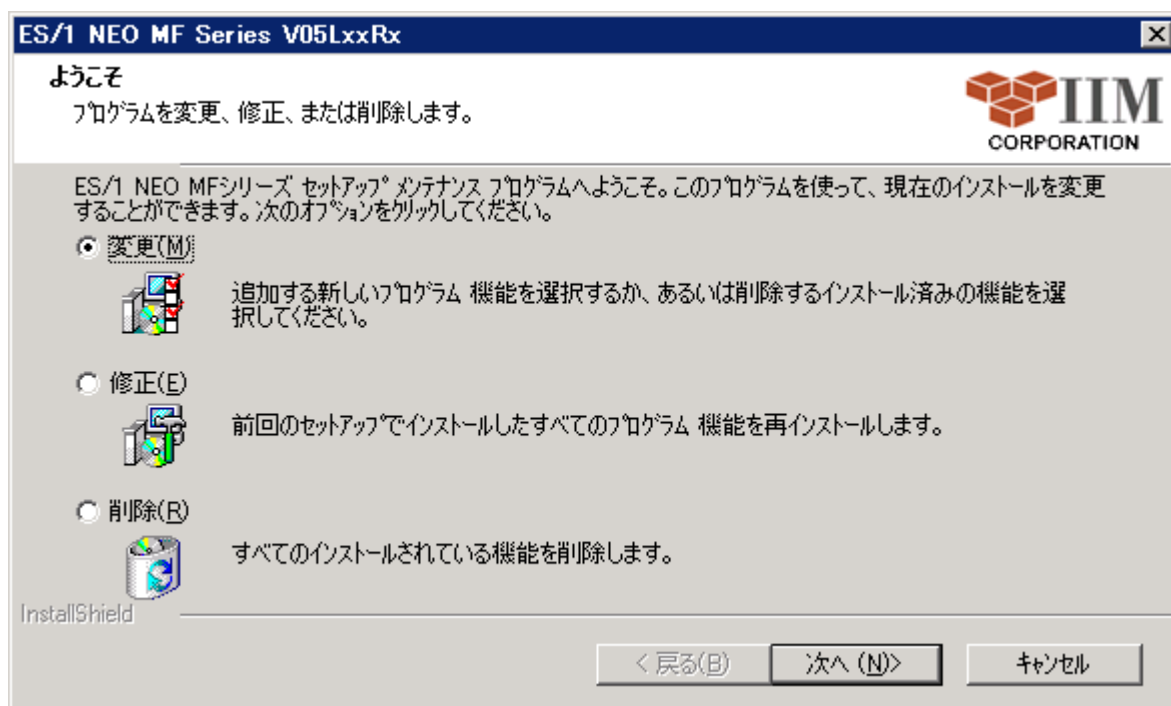
ES/1 NEO MF シリーズをアンインストールします。

「4.2 削除」を参照してください。

4.1. 変更／修正

新たにプロダクトを追加導入したり、不要なプロダクトを削除したりする場合、「**変更**」を行います。

「プログラムの追加と削除」画面にて[変更]ボタンを押下すると、以下の画面が表示されます。



ここで「**変更(M)**」を選択し、[次へ(N)]ボタンを押下すると、インストールされているプロダクトがチェックされた状態で一覧が表示されます。

「**修正(E)**」を選択し、[次へ(N)]ボタンを押下すると、インストールされているプロダクトのファイルを再度コピーします。ファイルが破損してしまった場合などに使用します。

コンピュータの状態によっては、コンピュータの再起動が必要な場合があります。



追加するプロダクトをチェック、または削除するプロダクトのチェックを外します。

[次へ(N)] ボタンを押下すると、インストールフォルダ指定とオプション指定画面と、インストール開始確認画面が表示されます。

インストール開始確認画面で、[次へ(N)] ボタンを押下すると、プロダクトのインストール、またはアンインストールが実行されます。各画面についての詳細は、「3. ES/1 NEO MF シリーズの導入」を参照してください。

4.2. 削除

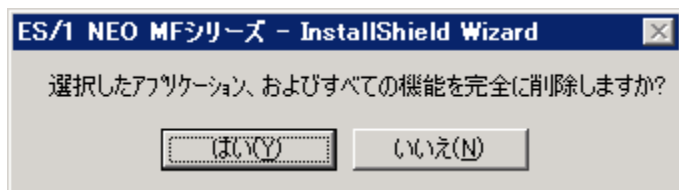
ES/1 NEO MF シリーズをアンインストールします。

ただし、インポート機能により取り込まれたフラットファイル群や、作成した CSV／グラフファイル群、報告書ファイル群は削除されません。これらは手動で削除してください。コンピュータの状態によっては、コンピュータの再起動が必要な場合があります。

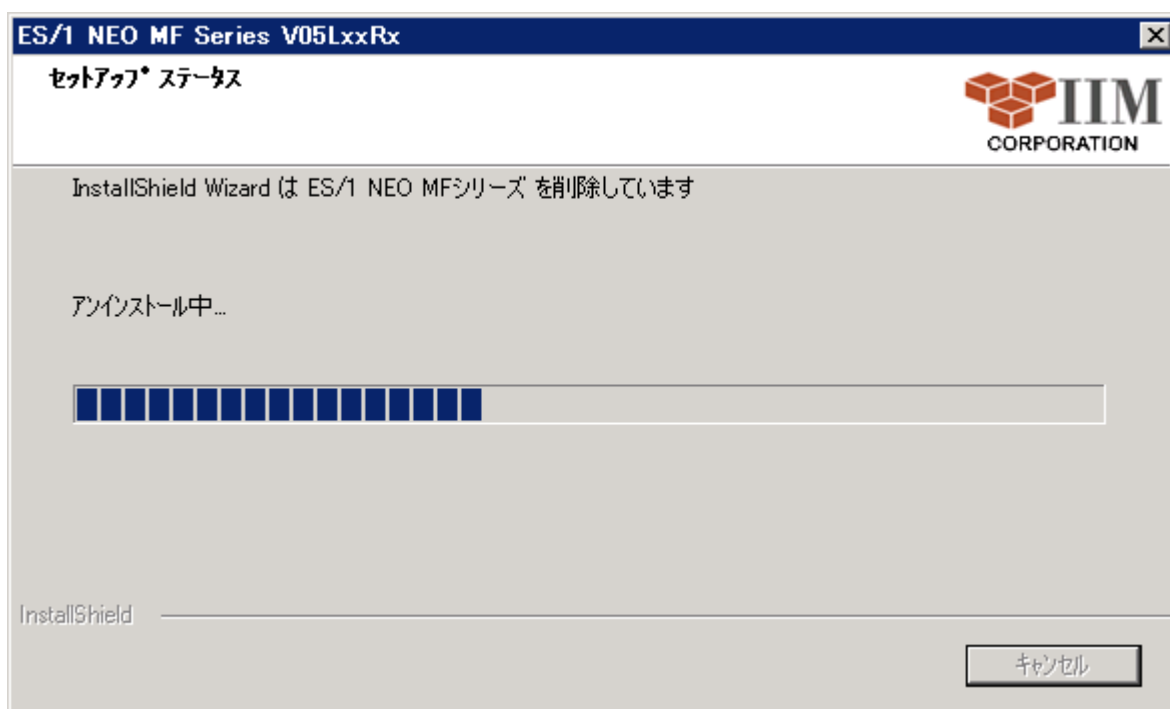
4.2.1. プログラムの追加と削除からのアンインストール

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から「ES/1 NEO MF シリーズ VxxLxxRx」を選択します。

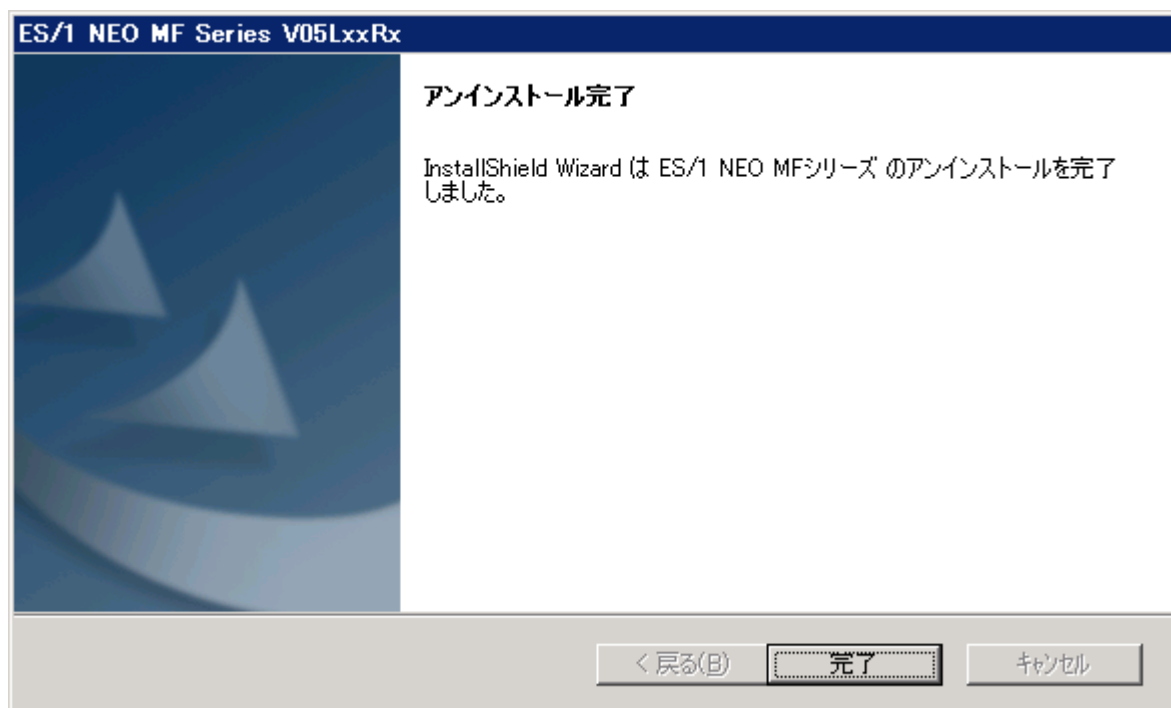
[削除]ボタンを押下すると、以下の確認メッセージが表示されます。



[はい(Y)]ボタンを選択すると、アンインストールが実行されます。



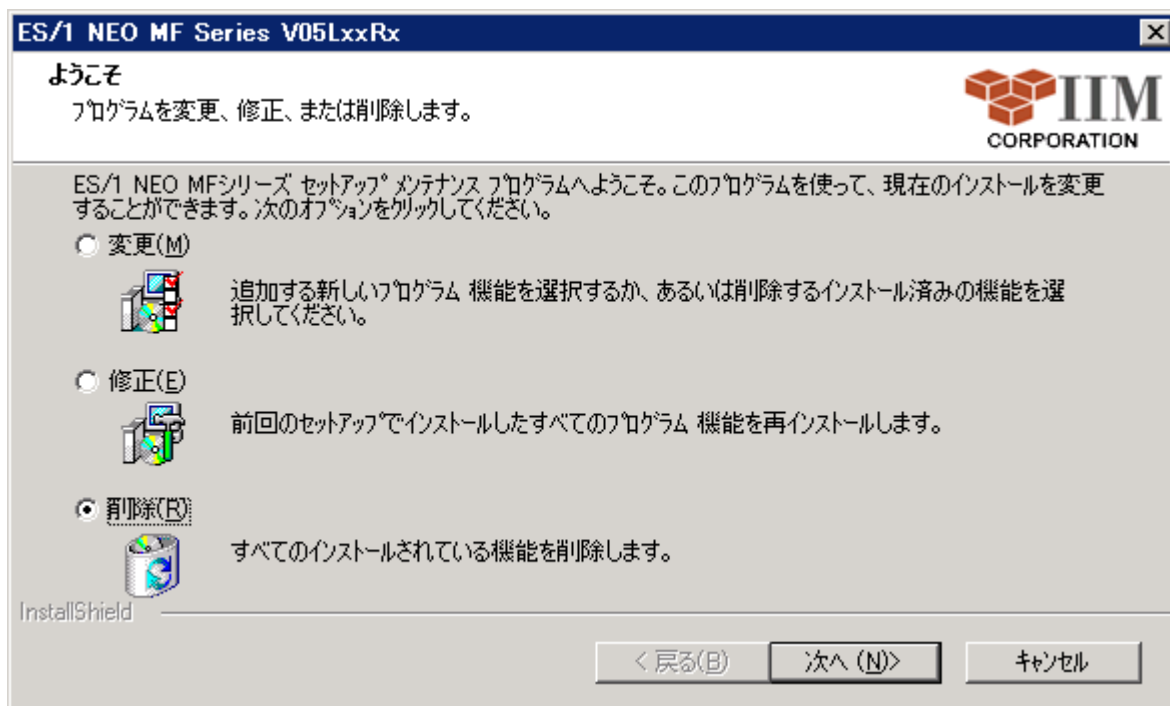
以下の画面が表示されたらアンインストール完了です。



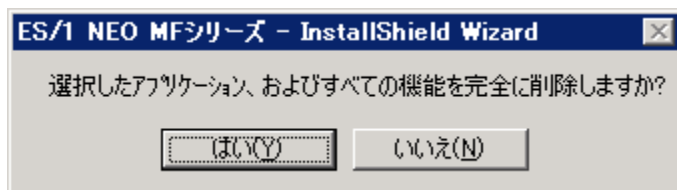
4.2.2. メンテナンスプログラム画面からのアンインストール

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から「ES/1 NEO MF シリーズ VxxLxxRx」を選択します。

[変更]ボタンを押下すると、以下の画面が表示されます。



ここで「削除(R)」を選択し、[次へ (N) >]ボタンを押下すると、削除の確認メッセージが表示されます。



[はい(Y)]ボタンを選択すると、アンインストールが実行されます。



以下の画面が表示されたらアンインストール完了です。

